

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371300720		
法人名	株式会社 ライフケアみおつくし		
事業所名	グループホームみおつくし新守山 2F		
所在地	名古屋市守山区新守西2032番地		
自己評価作成日	平成24年8月15日	評価結果市町村受理日	平成24年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成24年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR新守山駅から徒歩で約10分と交通の便が良い場所にありながら、本通りより奥まった閑静な住宅街にホームは建っています。町内会に加入しており、近隣の住民との関係も良好で、訪問をしていただいたり、ホームにご招待したり、行事への参加や協賛もしています。また今年度は町内会の組長も受けています。開設後10年目を迎え、地域に溶け込んだホームです。ご利用者が過ごされるホールは、大きな窓を取り入れ、床面積も多めに取っているため、広々とした印象です。スタッフも明るく元気で、笑顔が多く安心して過ごせるホームを目指しています。健康面に関しても、ホームと契約している主治医がほぼ毎週往診に來所し、各利用者様の健康状態を診て下さり、異常の有時は病院への紹介をしてもらっています。訪問看護ステーションとも契約しており、こちらは週一回の來所と異常の有

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは静かで環境の良い住宅地に立地し、JR新守山駅にも近い位置にある。「やすらぎ」を理念とし、自分が、自分の家族が認知症になったら入りたい、入りたいと思うようなホームを目標に介護に取り組んでいる。リビングは窓が大きく明るく開放感があり、外の景色が良く見え四季を感じ、ゆったりと過ごしている様子が見られた。地域との関係も良好で今年度は町内会組長も引き受け積極的に取り組んでいる。また近隣の人が認知症や介護のことを相談に来るなど地域に溶け込んでいる。守山区の福祉祭りには毎年参加して交流し地域への啓発にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である<やすらぎ>をホールに掲げ、各職員に意識して仕事に当たれるようにしている。また毎月のカンファレンスには原則全職員が参加をし、理念に基づいた介護方針を検討している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加をしており、今年は組長を受けている。各行事への参加や協賛をしたり、ホームの行事に地域の方の参加を呼び掛けたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの専門性を生かし、介護相談会の開催を町内会に提案し、いつでも相談に応じる体制を取っている。時々地域の高齢者や、在宅介護をされている方々の相談等がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ2カ月に1回の開催をしている。会議の最後に委員の皆様にはホールを見学していただいたり、質疑応答で出た意見や要望を取り入れたりしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区役所の担当者と連絡を取り、ホームの状況等を伝えたり、研修にも出来るだけ参加するよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束は行わないようにしている。必要な時は、あらかじめご家族や本人に同意を得るよう、会社から指示をされている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実際の虐待はもちろんのこと、言葉での虐待が無いよう、カンファレンス等で職員に注意を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスや申し送り時等、機会が有るごとに話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り細かな説明を行い、疑問点にはきちんと答え、ご理解・納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が現況説明を多めに取ったり、連絡を密にすることで対応している。また職員にも話しやすい雰囲気を作るようしじしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや申し送り時に機会を設け、可能な事より順次反映している。また3か月に1回の評価表提出時に、各職員の意見や要望等の記入欄があり、意見を聞いたりしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働環境の改善には取り組んでくれている。賃金面では各手当の創設、職場環境では腰痛対策の一つとして、電動ベッドの設置などをして職員の働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のカンファレンスの前に、30分ほど社内研修を行っている。社外の研修も参加機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まだ全職員にまでは行きわたっていないが、少しずつ職員も参加する機会を作っている。今後もサービスの質の向上には取り組んでいく考えを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に本人の生い立ちや、生活歴を知ること に力を注いでいる。また、本人の要望等につ いても極力聞く時間を設け、少しでも早く ホームになじんでいただくよう援助をしてい る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	気軽に電話等で連絡をしてもらうよう配慮し ている。また来訪時には状態説明や要望が 無いかを管理者や職員から聞くようにして いる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	入居当初、入居後に状況が変化するごと に、ご家族や本人と話し合い、必要な援助 を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	管理者、職員ともそのように接するよう努め ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	年に4回「みおつくし通信」を各職員が記入 したり、ご家族が来訪された時に本人の状 況を伝えたりして、ご家族と本人の距離を 短くするよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	仕事関係の方や、ご近所の方にも来訪して いただくようご家族に話しており、また機会 があれば馴染みの場所にもお連れするよう にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよ うな支援に努めている	職員が間に入って会話やレク等をするこ とにより、各利用者同士の関係構築に努め ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族には気軽に相談や訪問をしていただくように伝えており、実際相談を受ける事がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員には声掛けを重点的に行うよう伝えており、本人ばかりでなく、ご家族の意向も把握するように努めている。また困難な方には、職員同士で話し合い、検討した事で実施可能な事は、早めに取り入れるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者は、アセスメントを職員が自由に閲覧できるようにし、職員が本人の生活歴等の把握をするように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや、スタッフ間の意識共有に努め、本人の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを基に計画を原則立てるようになっている。計画立案時には家族に電話で現状を説明し、計画への要望や説明を行うように今年より始めつつある。ただしまだ取り組み始めたばかりなので、今後やり方の修正が必要と思われる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の介護記録書に状態や記録をつけ、各職員が情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にスタッフ間で話し合う時間を持っており、ニーズの変化や状態の変化になるべく対応できるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長や民生委員、組長さん達との関係強化に努めたり、社会福祉協議会や地域包括支援センター等との関係を築いており、職員にも情報を伝えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と本人に説明し、了解を得たうえでホームと契約を交わしているかかりつけ医に原則月2～3回の往診をしてもらっている。また緊急時には病院との連絡もしてもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護師が来訪し、その時に情報提供や相談を行っている。また、状態の良くないと思われる利用者の情報を主治医に情報提供してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関として複数の病院や医院と契約を交わしている。また、病院のケースワーカーとも退院後の受け入れ等について、連絡を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や機会が有るごとに事業所や会社の方針を説明し、理解を得ている。また重度化した場合、主治医から家族や本人に説明をもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一昨年に救急隊員を招き、救命指直やAEDの使い方の講習を行った。今年も計画を立てているが、今のところ消防署との日程が合わず、まだ行っていない。ただ各フロアに応急処置や救急処置の仕方の本を設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は毎年行っており、基本的な避難方法は各職員とも把握している。また今後、地域の方にも避難訓練に参加していただけるよう、町内会とも話し合いを行う予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現在意思疎通の難しい利用者や排泄介助の利用者が数名在籍しているが、職員は皆優しく接し、プライバシー保護のため居室での排泄介助時には扉を閉める等を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人が選択できるような問いかけや場面をなるべく多く作りだすよう、各職員は働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく個々人のペースで生活出来るように援助をする旨を常に伝えてきたことで、徐々に各職員の考えが変わってきたと思われ、以前よりは各利用者がマイペースで過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着替える事が出来る人には本人の意思を尊重しているが、介助の必要な人には汚れた時にはもちろん、2～3日ごとに着替え介助を行っている。また化粧をしたいという利用者には、女性職員がアドバイスをしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表は特に作っておらず、利用者の希望を聞いて食事を作ったり、準備や片づけを手伝える利用者には手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせた食事を提供し、量の確保が出来るよう声掛け等を各利用者に行っている。ただし、余程の事が無い限り、摂取量を量ることまではしていない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	原則毎食後、自力で出来る利用者には声掛けや見守りを行い、出来ない利用者には介助で口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で出来る方はもちろん、誘導や介助の必要な利用者には、介護記録に排泄時間を記入し、時間を見計らって誘導や介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を作り、本人の排便パターンを皆で確認できるようにしている。また食事やヨーグルト、牛乳を飲んでもらう事で、なるべく自然排便をしてもらえるよう援助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に毎日行っているが、外出やイベント等が有るときは行わないこともある。また、本人の入りたい時に入ってもらうような声掛けは行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に睡眠薬は使用していない。また、本人の生活パターンや体調を考慮して、適時休息や安眠できるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ごとにファイルし、各職員がすぐに把握できるようにしている。また薬の変更や用量の変更等は、主治医や訪問看護師と連携することで対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや洗濯物干し、たたみ、掃除等、利用者に役割を持ってもらい、頼りにされていると思ってもらえるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い季節には、職員と散歩に出かけたり、外出をしている。また駐車場で弁当を食べたり、日光浴を行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談のうえ、お金を所持出来そうな方には千円程度のお金を常に持っていたりしている。買い物等で本人の買い物をした時などは、その中から支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から依頼があったり、職員が声掛けを行ったりして、電話や手紙の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り付けを利用者で行ったりして、自分の部屋という印象を持ってもらえるようにしたり、抑えた感じの色使いの調度品を使用している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓だけでなく、ソファを配置したり、窓辺に一人用のソファを置いたりして利用者がのんびりと過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや仏壇、お位牌等利用者にとって大切な物を居室内に配置出来るような支援を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やトイレの案内を掲げ、一人一人が人に聞かなくても動けるような工夫や、夜間はセンサーライトをホール内に設置し、歩きやすいようにしている。		